

6. 2022 年度研究運営委員会活動報告

研究運営委員会

委員長 大原美保（土木研究所）

研究運営委員会では、地域社会の安全性の向上に関する学術・文化・社会の進歩発達に寄与することを目的として、学会が自主的に実施する研究（企画研究）と、外部からの委託申し出によって行う研究・調査（受託研究）の運営を行っています。2022 年度の下記の 3 つの企画研究小委員会の活動概要を報告します。2023 年度も、これらの研究小委員会が継続して活動を行う予定です。

■企画研究小委員会

(1) 復興国際比較研究小委員会（2019–2022 年度(2020 年度の活動休止を含む)）

主査：大西一嘉（神戸大学工学研究科）

本研究委員会は、様々な災害における復興過程に着目して、国や地域において復興に関わる様々な要因があることに焦点を当て、国際的な連携に向けた相互訪問調査などを通じた研究活動に取り組み、災害復興プロセスを検証する事で、個別性と共通性に関する知見を見出す事を目指して活動してきた。当初予期しなかった新型コロナウイルスの世界的な蔓延に見舞われた事から、残念ながら予定していた災害過程の現地調査や、被災地での関係者との対話、資料収集といった機会は実現困難な状況が続き、これまでに蓄積してきた文献資料や研究ネットワークを基に、資料の再整理を図ることとした。2023 年 2 月に発生したトルコ・シリア地震は、東日本大震災を上回る死者 6 万人近い人的被害となり、トルコだけでも 22 万棟を超える建物倒壊、約 146 万人が住宅を失うなど、歴史的な大災害となったため、他学会の研究報告会等にも参加して知見の蓄積を行った。今後、これらの成果公表をめざしたい。

（文責：大西一嘉 主査）

(2) 地域防災促進のための ICT の活用に関する研究小委員会（2020–2022 年度）

主査：小山真紀（岐阜大学）

地域安全学会は、行政職員やエッセンシャルワーカーなどの実務者と研究者が共に防災について考え、実践する事を設立以来、大事にしてきた。本研究委員会は、実務者と研究者が学術的なエビデンスと現場知を共に学びあえる場の実現を目的として活動を行っている。具体的には、遠隔地でも参加しやすいように、Zoom などのオンライン会議ツールや YouTube などの動画配信サービスなど ICT を活用したウェビナーを開催し、オンライン勉強会の開催の試行を通じて、災害対策に係る自治体や事業所職員の参加しやすさやニーズ、地域防災に関するオンラインネットワークのあり方について検討を行っている。コロナ禍によりオンラインツールへの抵抗感が大幅に軽減され、オンライン勉強会は毎回 100 名以上の参加を頂いている。

2022 年度は、以下の通り 4 回のオンライン勉強会、1 回のハイブリッド勉強会を開催した。

- ・ 5/14 「土砂災害リスク：土砂災害に関する気象情報の活用及び土砂災害ハザードマップの活用」
- ・ 8/7 「ハザードマップの利活用と住民の避難—雲仙普賢岳噴火の事例より」（火山学会との共催）
- ・ 9/24 「福祉と防災の最前線 —災害派遣福祉チーム（DWA T）の取組—」
- ・ 10/22 「福祉と防災の最前線 —福祉・防災実務者の視野と視座—」（ぼうさいこくたい 2022 にてハイブリッド開催）
- ・ 2/18 「2022 年 7 月の桜島火山噴火警戒レベル引き上げへの行政の対応/市民の反応」（火山学会との共催）

なお、報告者の同意を頂けたものについては、地域安全学会実務者企画委員会 YouTube チャンネルで公開している。 <https://www.youtube.com/channel/UCDXIGrVxWFmEU1krBNZ6low/playlists>

(文責：小山真紀 主査)

(3) 社会に役立つ防災情報システム研究小委員会(第4期)(2021-2023年度)

主査：牧紀男(京都大学)

本研究委員会は「電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ」と共同で、東日本大震災の長期的な復興、並びに次なる災害を想定し、若手研究者を中心とした人材のネットワークを構築すると共に、様々な情報システム技術を連携・融合させることで、情報混乱期における現場対応を支援する防災情報システムのあり方について研究を進めている。

2022年度は、2023年3月6日 13:30-16:30に、地域安全学会・電子情報通信学会共催により第12回目となる研究会を京都アカデミアフォーラム大会議室Dで開催し、8題の研究発表が行われた。

URL：<https://sites.google.com/site/drisjw/event/dris11>

来年度以降は、浦川豪先生(兵庫県立大学)を主査として「減災情報システム合同研究会」を継続して実施していく計画である。

(文責：牧紀男 主査)

以上